

# 人を尊重するということ

福井市成和中学校 一年 小園 峻

ぼくの父は、建築資材を扱う会社で働いています。ここでは、インドネシアから来日した技能実習生の方も一緒に働いています。父はその方たちに、日本語や仕事を教えたり、日本での生活のサポートをしたりする仕事をしています。

日本とインドネシアでは、言葉や文化、食生活、生活スタイル、宗教など、さまざまな場面で違いがあります。父は、日本で暮らす実習生の方たちが、少しでも過ごしやすいように、困ったことが起こったときには解決に向けて一緒に考えているそうです。実習生の方が抱えやすい問題はどんなことか、父から話を聞きました。

まず一つ目は、日本語の問題です。生活をするにしても仕事をするにしても、やはりコミュニケーションの元になるのが言葉なので、そこでトラブルが起こりやすいそうです。分からない言葉があったら辞書で調べたり絵で示したりして、日本語での言い方を伝えます。日本語検定を受けるための勉強をサポートしたりもするそうです。

す。今は携帯電話やパソコンでの翻訳機能を使うことも多くなり、以前と比べて、便利になったと父は言っていました。

二つ目は、生活の問題です。買い物をサポート、ゴミの分別など、その地域で生活できるよう、暮らし方のマニュアルを作成しています。日本人にとってはあたりまえの習慣も、外国から来た人にとってははじめてのことも多いだろうし、戸惑うこともあるだろうなと思いました。

その他、体調を崩したり病気になったりしたときには、その症状に合う病院へ連れていき、医者とのコミュニケーションの橋渡しもしています。日本での車の免許を持っていないので、送迎を手伝ったり、雪の日は一緒に職場まで行ったりもしていました。

仕事とは関係ないけど、地域のお祭りや花火を一緒に見に行ったこともありました。ぼくも一緒に行きました。が、その方たちと父は普通に会話を交わし、友達のように楽しんでいました。せっかく縁があって日本に来たのだから、仕事をするだけでなく、日本の風習を経験し、日本の暮らしを楽しんでもらいたいという父なりの気持ちを感じました。

逆に、父は助けられた面もあると話していました。彼

らは、機械を扱う技術に長けており、携帯電話が不具合になったときや動作不良を起こしたときには、直してくれたりしたそうです。その時は本当に助かったと言っていました。

もしぼくが外国で暮らすことになったら、と想像してみました。旅行をするには楽しみの部分が大きいのと思うけど、現地で生活し、さらに仕事もするようになったら不安しかないと思います。そこで、自分のことを理解しようとしてくれたり、親身になって支えてくれたりする人の存在はとてもありがたいし、大きいなと思います。

今、世界のさまざまな所で人種差別、男女差別、世代間差別などの問題があると聞きます。このような行為は決してあってほしくありません。人の見た目や思いこみ、へん見や固定概念で人を差別することは、絶対許されることではありません。人は、無自覚に自分がしたことには鈍感である反面、自分がされたことには敏感だという面があります。自分が差別される側になって初めて、それが問題だということに気付くのです。

ぼくからみて、父はそういうへん見や思い込みが全くなく、自然にその人たちと関わっています。仕事面では教える教えられるという立場の違いはありますが、人として相手を尊重し、お互いをリスpekトしていることが

分かります。

人権を尊重するとは、具体的にどうすればいいか、考  
えると難しくなってしまうけど父のように、何気ない暮  
らしの中で、相手にへん見の目を持たないことが何より  
大事だということにぼくは気付いた気がします。

テレビやインターネットでは、外国からの観光客が増  
加しているという情報を目にすることがよくあります。  
日本の人口が減少しているという側面も、深刻な状況で  
あると感じています。ぼくがこれからも生きていく世界  
は、今までよりもっと、他国の方と触れ合う機会が多く  
なることが予想されるでしょう。その中で、父のように、  
誰に対しても平等に、普通に接することができるような  
人になっていきたいと思っています。